

1. 評価結果概要表

平成 20年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2072501139		
法人名	社会福祉法人 阿南町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム まめだかな		
所在地	長野県下伊那郡阿南町西条694番地1 (電話) 0260-22-3370		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年11月1日	評価確定日	平成20年11月30日

【情報提供票より】(20年 9月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤5人	非常勤5人 常勤換算8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要 (9月 15日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	1名	要介護4	3名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	88.1 歳	最低	81 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立阿南病院、阿南町富草診療所、みかさクリニック(精神科)、回生堂クリニック(皮膚科)
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、自然溢れる山間地に位置し、四季折々の気配を感じながらゆったりとした時間を過ごしている。環境的に恵まれており、隣接のデイサービスセンターの行事やレクリエーションに参加でき、高齢者福祉センター入居者が尋ねてきたり、保育園との交流が盛んである。恵まれた立地条件の中で、グループホーム「まめだかな」の理念”受容・共生・自律”を掲げ、畑から旬の野菜を収穫したり、ショッピングへの買い物等、生活の質を高める様々な取り組みを行っている。これらの取り組みが、認知症の緩和や身体機能の低下予防につながり、利用者には笑顔があり、穏やかに生活している様子が伺われる。全職員がサービス提供場面で理念の具現化に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である家族への報告は、利用者状況を家族に定期的に報告を行っている。鍵をかけないケアの実践については、個々の生活パターンを理解し近所の住民の協体制度ができている。本人がより良く暮し続けるための介護計画の作成と見直しは、センター方式を採用し本人を主体とした視点から課題分析するよう努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価のねらいや意義について、全職員に周知を図り、日頃のサービス提供について職員が省みる機会でもあり、業務の見直しに繋がっており、自己評価の目的に結びついている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>重要事項説明書に「やさしい介護・楽しい会話・相手の立場に立った処遇の実践・責任ある介護と統一された処遇の実践」の運営方針を、運営委員のメンバーが常に運営の状況を把握し、その実現のためサポートしている。運営委員会からの意見によって、フェンスの出入り口を2ヵ所に増設したり、観音堂のお数珠回し等、地域の身近な情報をもらい地域との付き合い、地域貢献に取り組みまれ、グループホーム運営や利用者の生活の質の向上に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>法人内に相談・苦情体制を第三者委員による相談・苦情窓口の体制を整えている。家族会や家族等の来訪時や電話等、折りある度に職員は意識して意見、要望を聴き、それを真摯に受け止め、毎月の部署会議で検討し、サービス提供の質の向上に繋がるよう努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>平成17年の開設以来、地域住民との付き合いや協力関係を重視し、住民としての意識を持ち運営を行っている。買い物ついでに訪問者や地区のどんど焼き、保育園との運動会など地域との連携が当たり前のように行われ、地域からの理解と共に、住民と利用者との触れ合いが深まっている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉を支えていく事業の一環として、「受容・共生・自律」の標語と共に理念を掲げ、住み慣れた地域での安心した暮らし、その人らしい生活の継続を支えることを明確にした理念をつくり上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を、日々の生活の中で実践に活かすことを意識しながら、サービスの提供面(例えば、退院された入居者に対し、どこまで自律に結び付けられるか職員間で共有しながら)において、理念が反映されている。又、毎日のミーティング、職員会で理念を共有して意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園との交流、観音堂のお数珠回し、地区のどんど焼き、ごみだし等の行事に参加し地域との交流を深めている。地域との交流を通して、利用者の持っているエンパワメントを引き出すにはどうしたらよいかを職員間で検討しながら、積極的に取り組まれている。又いつでも誰でも気軽に寄っていただいたり、近所からのお裾分けの野菜、果物が食卓に上がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義や目的を、管理者は職員全員に周知を図り、評価の一連の過程を通じサービスの振り返りや見直しに取り組んでいる。課題に対して対策を行い、具体的な業務改善につなげている。		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて、地域密着型サービスのとしてのグループホームの理解を得よう現状報告を行いながら、話し合いを通じて率直な意見を戴いている。例えばフェンス入り口について指摘され、2カ所に増設したり、どんど焼きが遠方なため行けない入居者のためにグループホームの敷地内でやってみよう等の助言を得ながら地域に開かれたサービスの確保を図っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町担当職員との係わりは、電話や訪問等多くの機会を通じて気軽に相談できる関係を構築している。グループホームの実態を担当者に理解を得よう関係を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する情報満載の”まめだかな？”広報誌と共に、利用者の近況報告は、担当職員の手書きによりホームの暮らしぶりの報告を行っている。金銭管理は、定期的に報告を行っている。家族の来訪時、必要に応じて電話連絡相談する等配慮している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人内に相談・苦情体制を設け、第三者委員による相談・苦情窓口の体制を整えている。家族会や家族等の来訪時や電話等、折りある毎に聞き取り毎月の部署会議で検討し、質の向上へ取り組みを行っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の定着を図り、法人内の異動は極力最小限に抑えるように配慮している。止む終えない場合は、職員全員で利用者をサポートし、ダメージの緩和に努めている。運営者は、労働環境整備や、組織管理運営を促進し、職員の定着や馴染みの職員が継続的に支える体制に努め、入居者に不安を与えないケアを心がけている。</p>		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の育成に力を入れ、職員研修計画を樹立し全員が参加出来る様にしている。定期的の開催される法人内の研修会には、グループホームの職員は、認知症の学習会の講師となり、サービスの質の向上が図られている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者との総合評価などは、ホーム長が参加しそこで得た情報は、職員全員が共有できるようにしている。同業者との交流を通じて、職場内の日頃の業務の悩みの解消等、グループホームのサービスの水準の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して利用できるように事前に訪問してホームをみて頂いたり、少しの時間を過ごすなどして馴染みの関係づくりに心がけている。地域の中のグループホームであり、地域密着型サービスの利点を活かし、利用者及び家族と職員との関係作りも良好である。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「芋干しの作り方は、こうするんだよ。ゆで卵の皮はコップの中に入れて割るとこんなに上手くむけるんだよ。」はんでんの作り方、昔作った料理等教えて頂き、職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち生活を共にしながらお互いを分かち合え支える関係を築いている。</p>		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式によるケアマネージメントを取り入れ本人の意向を汲み取るようにしている。職員は、日々の気付きを共有しながら、受容を念頭に置き、利用者の思いや要望を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は担当者が中心となり、家族の意向も反映されるように、連絡を取り合いながら作成している。しかし、職員全体でケアカンファレンスを開くなどして、介護計画について話し合うことはない。</p>		<p>日々の介護は、介護計画を通して行っている事を職員が共有し、担当者が作成したプランに対して、職員全員でカンファレンスを行い、モニタリングを実施して、利用者及び家族からの意見を反映し、医療関係者の助言も頂きチームとしての介護計画を作成する事が望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月部署会議において利用者の状態を確認しながら、職員全員で担当者を中心に状況に応じて相談し、調整を行っている。</p>		<p>介護計画見直しは、日々の生活の中から現状に即した介護や、モニタリングを実施すると共に新しいニーズへの支援、又、変化の兆しに即した新たな介護計画を作成する事が望ましい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を活用し医療支援の充実を図ると共に、利用者、家族の状況に応じた通院支援や利用者の個別外出支援、家族に泊まっていただくなどの柔軟なサービス提供に努めている。</p>		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関からの定期的及び、随時適切な訪問診療があり、又利用前からのかかりつけ医の医療が受けられるよう、家族と協力し合って通院介助を行い、利用者の健康管理が適切に行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた「生前指示書」を取り交わすことによって意向を確認し、本人の状況に応じて連絡相談を行いながら、全面的介護に対する技術・知識の向上に努め、統一的な方針の共有を図っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>施設運営の方針1つに”……相手の立場にたった処遇の実践”が掲げられていて、個人情報保護について定期的に学習しており、職員は、利用者ひとり一人の誇りを尊重する事、情報の取り扱いは厳重にする事など、職員間で常に反省しながらプライバシーの確保の徹底に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの1日の流れはあるが、家庭の延長としてその人らしくゆったりと過ごせるよう配慮している。食事の延食や外出など一人ひとりのペースと希望を重視した生活の対応に心がけている。</p>		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下こしらえや後片付け、自分達の畑から散歩の途中で収穫してくる野菜、近所で届けてくれる野菜を使用し、何の献立にするか相談しながらその人の持つ力を発揮している。昔からの食べもの、テラスでの食事会などを通じて一緒に食事を味わい利用者にとって楽しい食事になるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1回、午後実施されゆったりと気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の収穫、ごみ出し、買い物、草むしり、料理のお手伝い、洗濯、掃除等ひとり一人の生活暦を活かし本人の力を発揮できる場面を作り、生活の質的向上につなげている。何が本人の喜びや生きがいに繋がるかを把握し支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームは環境的に恵まれていて、散歩やお花見、隣接のデイサービスへの参加等様々な場所へ目的を持った外出支援が行われていて、個別の外出支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は一般家庭と同じように防犯のため施錠している。居室は、鍵をかけずサッシは掃きだしにして生活空間として開放的である。個々の行動パターンを理解し、外出傾向の把握を行い、近所の住民の協力体制が出来ている。		

グループホームまめだかな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>区長さん等を含む運営推進会議等を通じて、協力を働きかけている。又隣接の同法人の支援や、警備会社にも通報システムになっている。非常食料・備品は同法人内の施設に準備している。</p>		<p>災害対策マニュアルを作成し、具体的な避難誘導策を決め利用者の安全確保が必要である。地域住民の参加、協力を得ながら緊急時の万全な対応の取り組みを期待する。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの栄養摂取量や好みを把握し、パンや麺類を献立に採りいっている等栄養バランスに配慮している。食事の献立は、栄養の専門的観点から定期的にアドバイスをもらうように検討している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い共用スペースは、季節の花木、壁には行事の写真、皇室の写真を貼ったりして、生活を楽しむ工夫がされている。広い廊下の窓からは、コスモスの花や、収穫した沢山の薩摩芋が見られ季節感が肌で感じられる。廊下や玄関先には、ソファを置き一人で過ごしたり、仲間との楽しい時間を過ごす工夫がされ、自分の家であるという居心地の良い空間づくりに努めている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は8.7畳と広く洗面台が設けられている。本人や家族の意向のもと、ダンスやギターなど個々に応じ生活し易い居室作りがされている。各居室の入り口は、屋号や苗字が掲げられ、居室の窓は掃きだしになっていて、横になっても外の景色が見え、窓を開けるとすぐ草むしりや布団干しが出来る等、開放的で細やかな配慮がされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。